

がく じ 学 而

摂南大学図書館報

No.104 2023.3



社説総覧:朝日・毎日・読売(本館所蔵)

激動の2010年代、2020年代を三大新聞の社説で読み解く。日本を代表する三大紙の社説3カ月分すべてを日付順に集成。巻末の分野別索引で重要問題を社説で読み比べることができる。(『社説総覧:朝日・毎日・読売』奥付抜粋)

CONTENTS

図書館の文化	2	枚方分館ニュース	10
図書館長 小山 昇		図書館学生サポーター活動(寝屋川キャンパス)	11
本の読み方について	4	図書館学生サポーター活動(枚方キャンパス)	12
理工学部 教授 檜橋 祥一		2022年度図書館利用者アンケート結果	13
進化する図書館	6	図書館利用統計	15
経営学部 准教授 三木 僚祐		2022年度 図書館入退館調査	16
学長推薦図書・図書館学生サポーターが薦めるこの1冊	8	サービスの紹介	18
教員が選ぶ推薦図書	9	2022年度摂大文化大賞・編集後記	20

日本最初の公開の図書館として「芸亭(うんてい)」が知られている。現在、奈良市北部の法華寺近く市立一条高校東側の一条通りと国道24号線の交叉点北西角に「芸亭伝承地」の碑が建てられている。芸亭は、石上宅嗣(いそのかみのやかつぐ)が自宅に設けた仏教の經典や儒教などの本を所蔵した書庫に名付けられたもので、それらを自由に閲覧できるようにしたとされている。「続日本紀」巻三六の天応元(781)年6月24日の条に大納言・正三位石上宅嗣の薨じた記事があり、天皇(光仁天皇)が正二位を贈ったと記されている。さらに、自分の旧宅を阿閑(あしゆく)寺となし、その一隅に外典(げてん; 仏教以外の書物、主に儒教の書物)のための院を設けて「芸亭」と名付け、学問好きの人が来て閲覧したいと望んだならば自由にそれを許し、そのために規則を定めて後世に残したとされている。続日本紀の編纂が延暦16(797)年とされているので、少なくともその当時に芸亭が存続していたと考えられる(宇治谷孟『続日本紀(下)全現代語訳』講談社学術文庫271頁以下)。

大宝令にある中務省(なかつかさしょう)の「図書寮(ずしりょう)」や寺院には経蔵が既に設けられていたとされるので、この芸亭が図書館の最初とされるとき、その意義は、私人の書庫が限定的であっても「公開」されたことにあると認められる。芸亭はその後、綜芸種智院が創設される天長5(828)年にはすでに廃絶されていたとされる(高山正也『図書館の日本文化史』ちくま新書38頁)が、その存在は現在の図書館にとっても重要であって、書籍に利用者が自由にアクセスできること、そして、それによる知的刺激は社会の発展に不可欠であると考えられるのである。

図書館の文化史を明らかにする前掲書によれば、「知的情報空間」の共有は社会の進化の原動力となるのであって図書館はそれを実現した「書籍の公共圏」であり、芸亭こそがわが国の書籍の公共圏を具現化した最初の事例であるとされている(高山・前掲書12、38頁)。漢文の訓読みの成功や漢字を基礎に漢字とは全く異なる仮名の創出により、特に平安期以降は、中国文明圏とは独立した日本文明圏が確立されることに繋がっている。文字で記録したものが木版などを使った印刷により本となるが、日本の伝統的な製本方法で作られた和装本(和本)は、巻物のような卷子本(かんすほん)から折本、糸で綴じた冊子本などと発展し、それらを集めて所蔵されることでその価値はさらに大きなものとなる。

鎌倉時代中期に武家の文庫として作られた金沢文庫(かねざわぶんこ)は、現在「神奈川県立金沢文庫」となっている(その概要について、https://www.pen-kanagawa.ed.jp/kanazawabunko/bunko/bunko_gaiyou.html 現在の読み方については、HPでは

KANAZAWA-BUNKOと表記されている。)。北条氏の一族である北条実時が設けたもので創設は晩年の建治元(1275)年頃とされるが、幕府の滅亡後は隣接する一族の菩提寺である称名寺によって書籍などが管理されて後世に受け継がれることになった。幕府の滅亡の影響は、現在の横浜市金沢区という離れた地にあったことが幸いしたようである。

また、創建に諸説あるが、足利学校も書籍の収蔵について重要である。創建や創設者について議論があるが、歴史として明らかになるのは、永享11(1439)年に関東管領の上杉憲実が現在国宝指定の書籍を寄進し、鎌倉の円覚寺から僧を招いて初代の座主(しょうしゅ=校長)として再興してからであるとされる(国の史跡として管理する足利市のHPを参照。<https://www.city.ashikaga.tochigi.jp/index.html>)。足利藩の廃止に伴い明治5(1872)年に蔵書と共に栃木県に引き継がれ、さらに地元足利町民のために校舎などを利用した学校が開校され、そして町民の願いにより明治9(1876)年には土地・建物や蔵書が県から返還されて足利文庫が設けられている。明治36(1903)年には足利学校遺跡図書館ができて書籍の管理がされるようになり、また建物等の復元もされて平成2(1990)年に工事が完了し江戸時代中期の姿が蘇っている。平成27(2015)年4月には「近世日本の教育遺産群—学ぶ心・礼節の本源—」として日本遺産に認定されている。

日本遺産は、「地域の歴史的魅力や特色を通じて我が国の文化・伝統を語るストーリーを文化庁が認定するもの」(https://www.bunka.go.jp/seisaku/bunkazai/nihon_isan/)である。個々の文化財のみを対象とせず、単一の市町村でストーリーが完結する「地域型」と複数の市町村にまたがってストーリーが展開される「シリアル型」に分けて認定され、栃木県の足利学校跡は、シリアル型日本遺産として、茨城県水戸市の旧弘道館、岡山県備前市の旧閑谷学校(しずたにがっこう)、大分県日田市の咸宜園(かんぎえん)跡の4市にまたがったネットワーク型のストーリーが評価されたものである。日本が明治維新以降いち早く近代化を成し遂げられた原動力として、江戸時代の藩校や郷学(ごうがく)、私塾などの様々な階層を対象とした教育機関が普及していたことが影響していると捉えられ、藩校として最大規模で総合大学ともいえる弘道館、最古の庶民のための公立学校とされる閑谷学校、最大規模の私塾とされる咸宜園、そして現存する最古の学校とされる足利学校は、「日本遺産」最初の平成27(2015)年度に認定された18件のなかでも初めに掲げられているのである(日本遺産ポータルサイト <https://japan-heritage.bunka.go.jp/ja/>)。

明治時代は外国との不平等条約を是正する努力を続



けた45年であるが、それに向けての近代化には欧州の法制度を導入したことが知られている。国家の骨組みとして8世紀に本格的に取り入れられた律令制は明治初期まで存続しており、例えば、2022年4月1日から民法4条が改正施行されて成年年齢が18歳となった(民法の一部を改正する法律:平成30年法律第59号)が、それまで20歳とされていたのは、明治9(1876)年太政官布告第41号で「自今満式拾年ヲ以テ丁年ト相定候」とされたことから分かるのである。この規定はその後、明治23(1890)年に公布された民法人事編第3条で「私権ノ行使ニ関スル成年ハ満二十年トス但法律ニ特別ノ規定アルトキハ此限ニ在ラス」とされて受け継がれている。なお、この民法はフランスから招いた学者の名をとってポアソナード民法とも呼ばれるが、いわゆる「民法典論争」によって施行が延期されて廃止に至っている。明治31(1898)年7月に施行されたドイツ民法を取り入れた現行の民法(第1編第2編第3編:明治29年法律第89号、第4編第5編:明治31年法律第9号)は、その第3条で「満二十年ヲ以テ成年トス」と規定し、その後の民法改正で第4条に繰り下げられ最近の年齢引き下げへと繋がっている。

書籍の収蔵は各所で行われてきているが、明治維新以降、図書館に関する規則は、図書館令(明治32年11月11日勅令第429号)が最初であるとされる。第1条は「北海道府県市町村北海道及沖縄県ヲ含ムニ於テハ図書ヲ蒐集シ公衆ノ閲覧ニ供セムカ為図書館ヲ設置スルコトヲ得」とし、第3条「私人ハ本令ノ規定ニ依リ図書館ヲ設置スルコトヲ得」、第4条「図書館ハ公立学校又ハ私立学校ニ附設スルコトヲ得」などと規定されている。これ以前に、教育令(明治12年9月29日太政官布告第40号)の第1条は「全国ノ教育事務ハ文部卿之ヲ統撰ス故ニ学校幼稚園書籍館等ハ公立私立ノ別ナク皆文部卿ノ監督内ニアルヘシ」と規定し、学校教育に関して書籍館という名で図書館を明記している。この書籍館という名称は、「しょじやくかん」と読まれると明治5(1872)年4月に文部省が開設した「書籍館」とされ、江戸幕府の紅葉山文庫や昌平黉(しょうへいこう)などの蔵本を元にした公立図書館であって、後の帝国図書館、国立国会図書館へと継受されるものである。また、明治12(1879)年教育令で規定された「書籍館」は、諸学校通則(明治19年4月10日勅令第16号)に受け継がれた後、同日に出された小学校令(明治19年4月10日勅令第14号)を改正した小学校令(明治23年10月7日勅令第215号)の第40条と第41条で「図書館」と明記され、これが正式に法令上で「書籍館」が「図書館」の名称に改められたものとされているのである。

現在、図書館に関する法令は、昭和25(1950)年公布の図書館法(昭和25年法律第118号)が基本法令とされている。しかし、その対象から学校関係の図書館は除か

れ(第2条)、小学校を始め中等教育学校・特別支援学校などに設置義務が課せられる図書館は、学校図書館法(昭和28年法律第185号)で、大学図書館は大学設置基準(昭和31年10月22日文部省令第28号)、短期大学は短期大学設置基準(昭和50年4月28日文部省令第21号)などで規定されている。

大学設置基準で「図書館」という語が使われている条文は第36条と第38条の2箇条であるが、令和4(2022)年改正(令和4年9月30日文部科学省令第34号、同年10月1日施行)でそのいずれもが改正されている。今回の改正は、「学修者本位の大学教育の実現に向けて」行われ、多様性と柔軟性を持った高等教育への転換が必要である、とされるのである。校舎に関する36条は、複合的な機能を有する施設設備が整備されてきている現状を踏まえ、多面的な使用も想定して機能に着目した「一般的な規定」として見直された一方、38条は大きく改正されている。

従前の第1項が「大学は、学部の種類、規模等に応じ、図書、学術雑誌、視聴覚資料その他の教育研究上必要な資料を、図書館を中心に系統的に備えるものとする」として、利用者が直接来館することを前提としていたのに対して、電子化やIT化を踏まえて、図書や雑誌等の表現について「教育研究に必要な資源」とされて再整理されている。38条の見出しは「図書等の資料及び図書館」から「教育研究上必要な資料及び図書館」となり、改正規定では、「大学は、教育研究を促進するため」という文言から始まり、視聴覚資料が「電磁的方法(電子情報処理組織を使用する方法その他の情報通信の技術を利用する方法をいう。))により提供される学術情報」と改められ、「備える」という部分も、「整備し、学生、教員及び事務職員等へ提供する」と改正している(第1項)。さらに、旧規定にあった閲覧室、レファレンス・ルームなどの第4項及び「閲覧室には、学生の学習及び教員の教育研究のために十分な数の座席を備えるものとする」としていた第5項は削除されることになって、紙の図書のみを想定したような規定が見直され、電子ジャーナルなどを含めた多様な資料の整備を促進することが求められることになったのである。

書籍の所蔵から始まりそれを広く公開して知的刺激の発信に寄与する図書館に求められる使命は、電子書籍の拡大やネット環境の質的拡充が著しい今日にあっては、それを踏まえた「図書館の文化」の構築が急務であると考えられる。1200年前にあったとされる芸亭伝承地の碑には「日本最初の公開図書館」と記されているように「書籍の公共圏」としての図書館の位置づけは変わらないが、改正された大学設置基準から求められるまでもなく、大学図書館を基点としての「新しい価値の創造」に向かって不断の努力を忘れてはならないと思われる。

はじめに

皆さんは誰でも、「読書は大事」、「本を読むことは人間の成長に不可欠」といった読書の重要性を説かれたことがあるでしょう。読書を続けている人もいれば、そうでない人もいるかもしれません。

ところで、皆さんは本をどのように読んでいますか。また、本の読み方について、皆さんは考えたことはあるでしょうか。

この度、学術の執筆依頼がありましたので、本の読み方について記したいと思います。

読み方を意識した電気回路の教科書 ―通読と精読―

中学生の頃に夢中になっていた中波放送受信を契機として、私は無線に興味を持つようになりました。その後、大学の電気工学科に入学して電気回路を学びました。電気回路は電気電子工学分野で最初に学ぶ専門科目のひとつで、個人的に興味のある科目でもあったので、電気回路の教科書[1]について、最初から順に読もうと決めました。つまり、序言に始まり、凡例、目次、続いて第1章と順に読み進めました。教科書の凡例を抜粋すると、次のように記されていました。

- 2.各章の終わりには、この章で得られた知識を整理するために特に摘要をつけ、さらに、適切な問題を掲げ、いわゆる自己検査ができるようにしてある。
- 3.摘要を活用することに努められたい。まず、各章にとりかかる前に、一応摘要を通読して、その章で学ぼうとする重点を知り、章を読み終えたときに、摘要の項目につきどの程度に理解が得られたかを反省するのがよい。

摘要とは、「重要な箇所を抜き書きすること。また、その抜き書きしたもの」です。上記3は、私の記憶に残る限り専門科目の教科書で初めて目にした内容であり、衝撃を受けるとともに私の教科書の読み方に影響を与えました。最初に摘要を通読、つまりひととおりの目を通すことで章の学びの要点を知り、章を読み終えて摘要の項目について理解度を反省するのがよい。そうか、電気回路の学びには、いや大学の学びには「反省」が必要なのか！

凡例にしたがい、次のように読もうと決めました。

- ①摘要を振り返り、理解できたと思える章については章末問題に挑む。問題が解けたらよしとする。
- ②摘要を振り返り、理解が足りない章については再度、章の細かいところまで丁寧に読む。章末問題で解けないものがある場合も同様とする。
- ③②を実行してもなお理解が足りない場合には、教科書以外の成書をあたってみる。
- ④それでも分からなければ友人に質問する、または友人と説明しあう。それでも分からなければ、先生に質問する。

上記②の読み方は精読と呼ばれます。凡例の「反省」ということばに触発されて通読と精読を意識するようになりました。それでも理解困難な章もあり、上記③に進むこともありました。理解が進んだ点はよいのですが、他に頼ることなく教科書の内容を理解できなかった自身の無力さを感じることもありました。この否定的な感覚は電気回路だけでなく他の科目でもありましたが、その感覚を緩和する糸口は次の本居宣長の『うひ山ぶみ』にありました。

余談ですが上記④について、先生に質問するよりも友人に助けてもらったことが多かったように思います。学びのうえでも友人は重要です。

本居宣長の『うひ山ぶみ』

本居宣長は、現存する日本最古の歴史書『古事記』を研究し、『古事記伝』44巻を著しました。『古事記伝』の完成後、弟子たちから執筆を勧められていた初心者向けの古学の入門書を書き終えました。それが『うひ山ぶみ』[2]であり、本居宣長の学生生活で得られた学問の要諦が簡潔にまとめられています。山ぶみ(山踏み)は山路を踏んで行くこと。とくに仏教修行のための山歩きをいい、学問の道に入り初めたことのたとえとして使われています。『うひ山ぶみ』には、本の読み方に関して次の通り記されています。

「又いづれの書をよむとても、初心のほどは、かたはしより文義を解せんとはすべからず。まづ大抵にさらさらと見て、他の書にうつり、これやかれやと読みては、又さきによみたる書へ立ちかへりつつ、幾遍もよむうち





には、始に聞えざりし事もそろそろと聞ゆるやうになりゆくもの也。」

「また、どんな書物を読むのにも、初心のうちは、はじめから文義を理解しようとしてはいけない。まずおおまかにさらっと見て、ほかの文献にうつり、これやかれやと読んで、さらに前に読んだものにかえればいい。それを繰り返せば、最初に理解できなかったことも徐々に分かるようになるものだ。」

これにより、上述の否定的な感覚は和らいで救われた気がしました。『うひ山ぶみ』にはさらに、読み方に関する解説が記されています。

本居宣長の教えは文系・理系を問わず、どの学びにも通じるのではないかと、思います。

アクティブ・ブック・ダイアローグ

アクティブ・ブック・ダイアローグ (Active Book Dialogue: 以下、ABDと記す) [3] は、竹ノ内壮太郎によって開発された新しい読書法です。次のように要約されます。

- (1) 1冊の本を複数の参加者で分担して読む。
- (2) 担当部分の要点を用紙にまとめる。
- (3) (2) の用紙を壁に張り出して、本の最初の部分から順番に、各自がまとめたものを発表する。発表者以外の参加者は発表内容を傾聴する。
- (4) 2人1組となって対話をしながら張り出された用紙を見て回り、気になる箇所に印をつける。
- (5) 印のついた箇所に注目しながら、本を読んで生じた疑問、気づきや感想を基にして参加者と対話する。
- (6) 全体で集まり、(5) の中で印象的なことを紹介する。

摂南大学に着任した2017年、私は初めてABDを知りました。ひとりで本を読むときとは異なり、他の参加者の視点や疑問、感想を知ることができ、自分では思い至らなかった気づきが生まれる点はとても新鮮でした。ABDは新しい本の読み方として大きな可能性を秘めていると思います。そればかりでなく、ABDは大学入学直後の友達作りに役立つのではないかと、と思います。

大学に入学する理由は人それぞれですが、中には大学に行く意味や大学での学びについてあまり深く考えていない人もいるかもしれません。換言すれば、「親の勧めがあったから」、「友達も行くから」などの理由で大学に進学する人もいるかもしれません。もし、自分に当てはまるといったなら、新入生同士で集まって『新・大学でなにを学ぶか』[4]をABDで読むことをお勧めします。この本には、大学での学びについて13人の大学の先生による「思い」が記されています。同じ学科の新入生複数人でもよいですが、学部・学科の異なる新入生同士の方が多様な思いや気づきに出会えるでしょう。ABDを通して13人の先生の思いに触れ、他の読者の思いを知り、気づきを得る。加えて自分の思いを他の読者に説明して感想を聞き、対話が生まれる。これにより、大学での学びに対して自分なりの思いが芽生えればよいと思います。同時に、共感する思いを持った友人、自分にはない着想をする興味深い友人が見つかることでしょう。そして、その友人は一生の友人になるかもしれません。

おわりに

もう1冊紹介します。加藤周一の『読書術』[5]です。おそく読む「精読術」、はやく読む「速読術」、本を読まない「読書術」、外国語の本を読む「解読術」、新聞・雑誌を読む「看読術」、むずかしい本を読む「読破術」が記されています。初版は1960年に発行され、現在も入手可能です。インターネットが普及した現在と比較して新聞・雑誌を取り巻く環境は異なる側面もありますが、読書術に関する優れた論考であることに変わりありません。

大学での学びにおいて、本を読むことは不可欠です。本の読み方を意識する、あるいは考えてみることで、今までとは違う気づきや発見につながると信じています。皆さんも試してみてもいいのではないでしょうか。



参考文献

- [1] 平山博, “電気回路論改訂版,” オーム社, 1982.
- [2] 本居宣長, 白石良夫全訳注, “うひ山ぶみ,” 講談社, 2009.
- [3] <https://www.abd-abd.com/>
- [4] 上田紀行編著, “新・大学でなにを学ぶか,” 岩波書店, 2020.
- [5] 加藤周一, “読書術,” 岩波書店, 2000.

はじめに

かつては、通学、通勤時の電車内において文庫本や週刊漫画など、本を開いて読む人の姿をよく見かけた。それが最近では、スマートフォンを指先でスライドさせる姿にとってかわった。ときどき、私も電車通勤中に車内で文庫本を開きたくともあるが、周囲の様子をうかがうとなんとなく恥ずかしい気がしてできずにいる。本が読みたいのなら、スマホを通し電子書籍で見えることもできる。しかし、小さな画面の中にある文字を追うのが煩わしく、目と肩が疲れてくることを思うとなかなかできない。

近頃は、図書館でも紙の本だけでなく電子書籍も借りることができるようになってきた。スペースを取らない分、また、気軽に手にすることができる分、これからさらにそのニーズを伸ばしていくことだろう。だが、図書館の蔵書の多くが電子書籍に代わってくると、収納スペースが格段に減る分、大きな建物は必要なくなる。そこで考え始めてしまうのが、図書館の存在意義である。このエッセーでは、電子書籍化が進む現代において、図書館のあり方がどのように変わっていくのか私の考えを述べてみたい。

紙の本と電子書籍

図書館について考える前に電子書籍化に対する私の思いを書いてみたい。私の学生時代にも、CD-ROM版の「広辞苑」のような辞書であるとか、百科事典などが発売されており、電子書籍自体は存在していたが、まだ一般的ではなく、本といえばやはり紙の本であった。大学院時代においても、雑誌の論文は、デジタルデータをダウンロードするのではなく、図書館で雑誌を一生懸命コピーして読んでいたのを思い出す。

しかし、今では、AmazonのKindleといった電子書籍が急速に普及するようになり、先も述べたように通学、通勤時の電車内で文庫本や漫画雑誌など紙の本を開いて読んでいる人を見かけなくなった。また、大学で卒論指導をしていても、卒論の参考文献として使う本について、紙の本ではなく電子書籍を利用する学生が多くなってきている。

このように電子書籍が広く流通したことで、いつで

もどこでも、手軽にスマホやパソコンで読みたい本を読みたいときに読むことができるようになった。しかし、電子書籍に触れるたびに、いつも、何か違う、と感じてしまう。同じ本であっても、紙の本と電子書籍では印象ががらりと変わるのである。本は、フォント、文字の大きさ、行間等により頭に入ってくる印象が全く違ってくる。

それは紙の本も電子書籍も同じであるが、両者の一番の違いは、文字が書かれているのが「紙」なのか「電子」なのかである。紙であった場合、その質感や同じ白系であったとしても微妙な色の違い、そしてページを繰るときの手触りがそれぞれの本によって違う。それはその本が持つ独特の「個性」のようなものとなる。「電子」の画面も、最近とはとてもよく研究されていて読みやすくなってはいるが、画面はパソコンやスマホなどと同じ「電子」なのである。そこには表情も存在するが、どこか画一化した雰囲気は否めない。

紙の本を選ぶか電子書籍を選ぶか、という問題は、読み手の好みによるところが大きいだろうが、単純に利便性だけを考えると電子書籍に軍配があがると思われる。それならなぜ、いまだに数は減ったとはいえ紙の本は出版され続けるのか。その理由を考えていくと、「本」を楽しむということは、単純に書物の内容を「読む」ということももちろんあるが、同時に、「別のもの」の存在にも思い至るのである。

その「別のもの」とは、つまりは「体験」である。紙の本を手にとった時の質感、読んでいくうちに芽生えてくる愛着等、手に取った「本」にまつわる体験である。その「体験」を味わいたいがために紙の本は買われていくのではなかろうか、という気がしてならない。

書店に足を運ぶ理由もそれと同様で、今ではAmazonなどを利用しネットで本を購入することもできるが、あえて書店に行き、数ある棚と本の中から時には中身を吟味してお目当ての一冊を見つけるというのも、単純に「本」を買いに本屋に行くのではなく本を探す「体験」を求めて本屋に足を運んでいるという気がする。そしてそれは、現代の図書館にも言い当たると思われる。



図書館という空間

図書館には、紙の本だけでなく電子書籍やDVD、CDと、多くの媒体が存在している。膨大な蔵書の検索は、かつては手書きのカード管理だった。それがいまではコンピューター管理に代わり、ボタンを押すだけですぐ探し出すことができる。図書館の一番の役割は、蔵書（一部は持ち出し禁止もあり）を貸し出すことだが、来館者は本を借りるだけでなく、家ではなかなか集中できないからと図書館で自習することもできる。

しかし最近建てられた図書館は、こうした昔ながらの施設とは大きく方向性が違ってきている。開放感のある大きなガラス張りの造りや、ゆったりと落ち着いた館内。施設によっては、テイクアウトのコーヒーショップが入っているところもある。図書館ではなく、おしゃれな大型書店のような佇まいのそれは、昔のものとは比べ物にならないほど個性豊かな施設と変化していた。さすがにコーヒーショップが入っている図書館は数少ないだろうが、それでも、近年の図書館すべてに共通しているのは「くつろいでほしい」という思いのような気がする。そんな造りに変わってきている理由には、施設側がたくさんの来館者を期待しているからだろう。だが来館者の方にも、本を借りに行くという目的よりも、その空間の中での「体験」を味わいたいとニーズが増えてきているのだから、施設の在り方が時代とともに変わってくるのは自然なことだといえる。

「本」というキーワードは昔も今も変わらないが、図書館の存在価値や在り方は大きく違ってきていて、本を借りなくても、いるだけで何とはなしにくつろげるといった、そんな空間になってきたのである。紙の本か電子書籍かという媒体の違いは図書館という空間を考えるにおいては大きな問題ではなく、「本」をテーマとして物と者が集まるくつろぎの空間こそが現代の図書館であり、図書館の進化なのではないだろうか。

おわりに

当たり前のように存在している「図書館」であるが、こうして改めて考えてみると、その在り方は私が子供のころと比べてかなり大きく変化していた。本を借りる場所、自習をする場所と、ほとんど限定的に位置付けられていた過去の施設とは大きく異なり、現在の図書

館はかつてないほどにオープンな施設に様変わりしてきた。ここでは書かなかったが、くつろぎの時間の提供に止まらず、図書館ではいろいろな催しもされていて、ワークショップなどの参加型のイベントも多く開催され、図書館は様々な「体験」をする場所になってきている。過去の図書館よりも今の図書館の方がより開かれたものになっている。本好きのためだけの施設ではなくなっているのである。

散歩のついでに、気分転換に、ぶらりと図書館に立ち寄る。コーヒーショップに立ち寄るような気楽さで、図書館に足を運ぶことが日常生活に溶け込んでいく。図書館がそんな存在になっていけば、とても素晴らしいことだ。そんな世の中になっていくことを願っている。



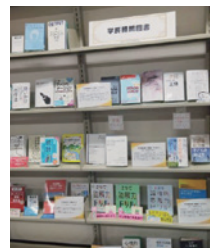
学長推薦図書



学生並びに教職員の皆様へ

学長 荻田 喜代一

いつも推薦図書を手に取っていただき、誠に有難うございます。近年、「学修者本位の教育」の実践が必須であり、そのためには、学生の「主体的・自律的な学び」および「思考力・創造力・創造力を含む深い学び」の場を創ることが重要です。この推薦図書には、能動的学修法や授業デザインを学び、実践するための必読書があります。一方、学生の皆さんには、思考力、問う力、成長する方法などを学ぶ書や実社会で必要な能力をつける実用書があります。ぜひ、多くの皆様に手に取っていただき、みんなで摂南大学の教育を進化・深化させましょう。



図書館ポータルサイト

図書館学生サポーターが薦めるこの1冊



「容疑者Xの献身」
東野圭吾(著)
文春文庫/2008



ドラマでも有名なガリレオシリーズの長編作品です。作品冒頭に起こる殺人事件。容疑者は絞られているにも関わらず、真実に辿り着けない警察。そんな警察にもどかしさを感じていながらも、ガリレオこと湯川によって真実が明かされたとき、自分もまた天才数学者石神のトリックに騙されていたことを知ります。完璧でありながらも悲しく切ないそのトリックを知り、この作品名がより深く心に刺りました。映画も併せてお薦めしたい作品です。

薬学部薬学科5年次 宮本 夢彩

「マカン・マラン 二十三時の夜食カフェ」
古内一絵(著)
中央公論社/2015



皆さんは運命が変わる食事をしたことがありますか。この本では食事が人間にとってどれほど大切かが描かれています。夜食限定カフェ「マカン・マラン」の店主であり、ドラッグクイーン「シャール」が作る夜食が、カフェに訪れる登場人物たちの心を解し、身体も労わります。全4話の短編集で、1話につき1食、おもしろい夜食が登場します。読むとマカン・マランの世界観に引き込まれ、現代社会で悩める私たちの心も解かれているような感覚になると思います。日々の生活に癒しを求めている人に読んでほしい1冊です。

薬学部薬学科5年次 山本 亜梨沙

「鹿の王」
上橋菜穂子(著)
KADOKAWA/2014



この物語は岩塩坑で奴隷をしている人達が犬から伝染する病気にかかり1人を除いて全員死亡するところから始まります。つまりファンタジー医療というジャンルの物語です。この物語から宗教と医療の関係性や、動植物について考察しながら読むことができます。話がややこしく感じた時や、人名、国名が覚えられない時は是非とも紙に情報を書き出しながら読んでみてほしいです。ただ読んでいただけでは見えなかった関係性や考えが出てきて面白かったため、薦めさせていただきます。

薬学部薬学科1年次 新田 菜月

「ピクトさんの本」
内海慶一(著)
ビー・エヌ・エヌ新社/2007



丸い頭に四角い手足、なにより全身の緑が特徴的でいつも非常口へと駆け込もうと急いでいる人物といえば誰を思い浮かべますか。彼らのこと、きっとあなたもご存じでしょう。そう、あの棒人間です。彼らは「ピクトグラム(以下、ピクトさん)」、いつも私たちのことを見守ってくれています。しかし皆さんはそんなピクトさんにどれだけの種類があり、どこにいるかご存じでしょうか。時には私たちへ危険があると身をもって教え、更には子供も働いているピクトさん、実は世界中にいます。この本ではそんな多種多様なピクトさんの勇敢で、たまに抜けている姿を見ることができます。見ていて思わず笑ってしまうところもこの本の素晴らしいです。ぜひ、お気に入りのピクトさんを探してみてください。そして、彼らの勇姿をぜひご覧ください。

理工学部生命科学科2年次 向山 佳那

「生物界をつくった微生物」
ニコラス・P. マネー(著) 小川真(訳)
築地書館/2015



「微生物が生物界を作った。」と聞くと多くの方は大袈裟だと思われるかもしれません。しかし、本書を読めばその考えは大きく変わります。本書では、動物や植物は生物史的には後発の生物であること、動物のミトコンドリアや植物の葉緑体は微生物由来のものであることなどから「微生物が生物界を作った」ことや「微生物を研究することの重要性」を知ることができます。近年、微生物の性質や機能を用いた研究が注目されているので、理系の方におすすめの一冊です。

理工学部生命科学科1年次 松下 尋

「探偵はもう、死んでいる。」
二語十(著)
KADOKAWA/MF文庫/2019



第15回 MF文庫 新人賞 最優秀賞受賞されており、2021年にはアニメ化されました。「お客様の中に、探偵の方はいらっしゃいませんか?」というキャッチーなセリフから始まる異能バトル小説です。探偵というワードが頻発し、推薦文でもミステリーという言葉がでていますが推理小説要素は薄いというか皆無です。小説が苦手な私でも展開がどうなるかわかりやすいため、すぐに読めると思います。また、コミックにもなっているので興味のある方、読んでみてください。

経済学部経済学科3年次 樋野村 陽

教員が選ぶ推薦図書

「科学の世紀を開いた人々」上巻・下巻
竹内均(編)
株式会社ニュートンプレス／1999



科学技術は19世紀から20世紀にかけての発展が著しい。本書では、数学・物理学・天文学・化学・生物学・工学など科学界のありとあらゆる分野における歴史上の人物を上下巻合わせて105名、その生い立ちから苦難の人生を経て成功を掴むまでを簡潔に紹介している。これだけの偉人伝を各580ページ程度に纏めた上にたった2巻だけの構成であるので、大した内容が書かれていないだろうと高を括って読み進めると、それは全くの見当違いである事に気付く。それもそのはず、編者は地球物理学の世界的権威であった、あの竹内均氏である。科学の発展に貢献してきた国内外の人物を内面までも含めて広く伝え、若者を科学の世界にいざないたいという氏の強い思いが感じられる良書である。

理工学部 教授 堀内 利一

「森鷗外 学芸の散歩者」
中島国彦(著)
岩波新書／1937



森鷗外のコンパクトかつ精緻な評伝が、岩波新書から出ました。明治17年という近代日本の草創の時代に、軍医としてドイツに留学した鷗外は、そのとき22歳という若さでした。鷗外はその留学体験を糧に、軍医としての職務を行うだけでなく、華々しい文学活動を展開しました。本書からは、鷗外がいかに多面的に活動していたか、そして日本の近代化という大義を医学・文学の双方で一身に背負いながら、それらをむしろ旺盛に楽しんですらいいた様子を知ることができるでしょう。鷗外の若さとその活動力に、大学生の皆さんにも刺激を受けてほしいです。

国際学部 講師 古矢 篤史

「僕が考える投資について」
松浦弥太郎(著)
祥伝社／2021



「投資をする」といえば、株や債券等を連想する人が多いだろう。また、投資とはお金を増やすことであると考えの人が多いただろう。しかし、本書では、株などへの投資よりも先にまず「自分」への投資を考えるべきだとする。自分への投資とは、お金を増やすことではなく、自分はどうなりたいのか自身の未来を考えることだと述べる。将来の自分のために、どんな風に、今お金を使うのか。このような考え方をすると、毎日の暮らし方や物事のとらえ方も少し変わってくるかもしれない。

経営学部 准教授 三木 僚祐

「愛するということ」
エーリッヒ・フロム(著) 鈴木 晶(翻訳)
紀伊國屋書店／1991



60年来の世界的ベストセラーです。2020年に大幅に改訂され、とても読みやすくなっています。本書の英題は『The Art of Loving』。「Art」は普通「芸術」と訳しますが、本書の場合は「技術、能力」などを意味しています。人は皆、「愛されること」を渴望しますが、「愛すること」は、それ以上に大切な事なのです。コロナ時代の今こそ「愛の技術と理論」をこの本から学んでください。大学では教えてもらえません。

薬学部 教授 大塚 正人

「転生したらスライムだった件」
伏瀬(著)
株式会社マイクロマガジン社／2014



学生の皆さんにはお馴染みのタイトルかもしれませんが、原作小説を読んでみてほしいです。いわゆる転生ものという最近よくある物語ですが、単にスライムが仲間を増やして敵対する魔物と戦って…というだけではありません。小さな村が1つの国にまで発展していく過程が描かれており、いわゆる「まちづくり」の基礎を学べます。また様々な業務を専門知識のある者に信頼して任せることで効率的な分業を図っており、会社経営や組織運営の基礎も学べます。国の存続と発展は統治者であるリムルの実力と信頼に裏打ちされ、興味深いリーダーシップ像も学べます。ライトノベルも捉え方次第で様々な学びがあるので、学問的に読み解いてみてください。

法学部 講師 高間 佐知子

「わたしは「セロ弾きのゴーシュ」 中村哲が本当に伝えたかったこと」
中村 哲(著)
NHK出版／2021



ハンセン病根絶を目的にアフガニスタンに赴任するも、厳しい干ばつに直面し、医療だけでは多くの命を救えないことを痛感して1600本の井戸、25キロ以上の用水路を作り、65万人の命をつなぐも、銃撃によって2019年に亡くなった医師中村哲氏の著書。「困っている人がいたら手をさしのべる」という人として大切な教訓を伝えています。また内戦状態や劣悪な衛生状態で「死」と隣り合わせの環境の中、本来「人間が生きる上での幸せ」とは一体何かを考えさせてくれる一冊で、是非学生に読んで欲しい一冊です。

経済学部 准教授 名方 佳寿子

「お探し物は図書室まで」
青山美智子(著)
ポプラ社／2020



「図書室」というなかなか響きにぴったりの内容で、本が好きな人、図書室が好きな人には、特にじんわり味わってもらえる物語だと思えます。人生が退屈で、人生に躍いたと感じながら日常を過ごしている人が、なんとなく図書室を覗いてみると、奥の方に1人の司書さんがいます。そして「何をお探し?」と声をかけられます。人生の悩みを見抜いたような選書と羊毛フェルトのぬいぐるみを渡され、そこから人生に大事なことや幸せに気づかされるような流れになっています。視点を変えるとこんなに「目に映る日々」が豊かに感じられるのかと驚かされる一冊です。

看護学部 准教授 竹下 裕子

「暴走する能力主義—教育と現代社会の病理—」
中村高康(著)
ちくま新書／2018



この本を紹介する理由のひとつは、学生諸君が生涯、その大波をかぶる能力主義がどのようなものかを理解するうえで参考になると思うからだ。コミュニケーション能力やリーダーシップといった測定不能な能力を重視する社会の病理が解明される。もうひとつの理由は、社会学の先端理論のひとつをなすアンソニー・ギデンズの再帰的近代化論にもとづく分析であることだ。再帰的近代化については多くの解説があるが、管見の限り、この本が最もわかりやすい。学部学生にとってはやや難しいが、少し背伸びすれば読みこなせるレベルである。

農学部 特任教授 柳村 俊介

「言語化の魔力」
精神科医樺沢紫苑(著)
幻冬舎／2022



3年以上も続くコロナ禍のため、正体のはっきりしないストレスやモヤモヤを抱えている人がとても多くなったと言われています。スマホの見過ぎがそれを助長しているという専門家もいます。この本はストレスやモヤモヤの正体を明らかにし、解決するための手立てを示してくれます。「睡眠時間が短い」「なんとなく落ち着かない」「集中が続かない」「スマホを開かずにはいられない」などを感じている人はぜひ目を通してください。悩みを解決するために、「したことが良いこと」「しない方が良いこと」が明確になります。

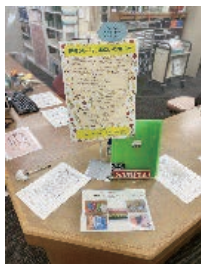
教職支援センター 特任准教授 松浦 正典

枚方分館ニュース

枚方分館は、薬学・看護学・農学に関する専門図書を中心に揃え、学生の学修支援を実施しています。

学生のみなさんには『読書ラリーYOMOCA』『テーマ別特集展示』『選書フェア』などの企画を通して、読書のすばらしさを体験してほしいです。また、昨年の10月に枚方キャンパス図書館学生サポーターが発足し活動をはじめています。本や図書館が好きな学生は是非、参加してみてください!

読書ラリーYOMOCA(ヨモカ)について



2014年度にスタートして今年で10周年となります。

参加者にはポイントカードを配付します。スタンプが全部貯まるとクリアファイルなどのYOMOCAオリジナルグッズ(写真)がもらえます。図書・雑誌を借りて期限内に返却する、希望図書の申込書を提出、ブックレビュー(書評)を提出するというミッションを遂行することにより、スタンプを押します。

ところで、みなさんは本屋大賞をご存じですか。働く書店員さんの投票により決まる賞なので良い本が選ばれます。2022年度の本屋大賞1位となった「同士少女よ、敵を撃て」(逢坂冬馬著・早川書房)。第2次世界大戦でスナイパーとなった少女の物語です。フィクションですが緻密な描写やスナイパー同士の駆け引きなど一気に読むことができます。わたしもこの少女のような人生を歩んだら同じような生き方をしていたかもしれないといった疑似体験、話の中に出てくるスターリングラードという都市は現在ないこと、第2次世界大戦では女性兵士はソ連しかいなかったなどの知識を得ることもできます。是非、専門の図書を読む合間に小説も何冊か読んでみてください。YOMOCAがその励みになれば幸いです。

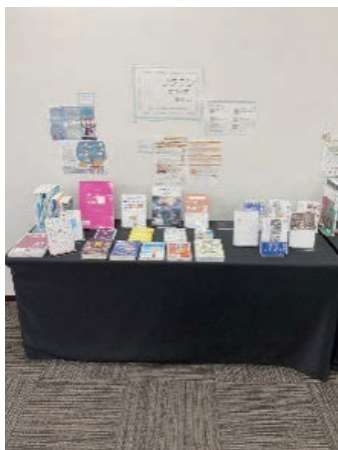
テーマ別 特集展示

学生・教員が興味を示しそうな話題や定番のテーマに関する図書を選書して、期間を定めて展示しています。

今年度は、『ワクチンについて、知ろう』『食品ロス食料危機問題』といった専門分野の展示や『Animal』『読む旅行-本で旅をしよう-』といった、ほのぼのとした図書の展示もしています。是非、展示コーナーで展示されている図書を手に取り読んでください。なお、定番のテーマとして『学長推薦図書』『摂大文化大賞』『選書フェア』『SDGs』『本屋大賞』などがあります。



Animalあつめました



ワクチンについて、知ろう

- 4月 学而推薦図書2022
- 5月 本屋大賞2022
宮子あずさ「ナース主義!」看護学部10周年記念講演
- 6月 始めてみよう!家庭菜園・ガーデニング
ワクチンについて、知ろう
SDGs2022
- 7月 摂大文化大賞にむけて2022
摂大農学セミナー「おなかの健康はからだの健康」
- 8月 夏の選書フェア2022
- 9月 続き絵表紙
食品ロス食料危機問題
- 10月 川端康成没後50年 森鴎外没後100年
- 11月 Animalあつめました
- 12月 読む旅行-本で旅をしよう-
- 1月 冬の選書フェア2022
- 3月 ソーシャルメディアとの付き合い方
- 通年 学長推薦図書

図書館学生サポーター活動 (寝屋川キャンパス)

図書館では、本や図書館が好きな学生たちが「図書館学生サポーター」として活動しています。2022年度、寝屋川本館では様々な新しい企画にチャレンジしました。このページではその活動内容や、サポーターから寄せられた情報をお届けします。

2022 全国大学ビブリオバトル

全国大学ビブリオバトルに出場して

法学部法律学科3年次 呉 悠介

初めて参加したビブリオバトルでした。紹介した「変な家」(雨穴著/飛鳥新社)を知ったのは、私が受験期の疲れしている時に見た、オモコロというウェブサイトの記事が発端です。著者はウェブライターでもあり、「変な家」というウェブ記事を出していました。作り込まれた設定、登場人物の感情の表現、登場する家の気持ち悪さに受験の疲れも忘れ、初めて書物に引き込まれたのを覚えています。この記事を元に、物語が追加された書籍が出ると思った時は鳥肌が立ちました。私はこの本でビブリオバトルで勝ちたいと思いました。

地区予選では緊張しつつも、この「変な家」の好きなところを楽しく発表し、優勝という自信の持てる結果を勝ち取ることができました。地区決戦でも、他の人に負けてたまるかと思いながら、発表しました。地区決戦には図書館サポーターとしての活動を手助けしてくれる図書館の職員や後輩も応援にきてくれて、「本を紹介してる途中で泣いてしまうのではないかな」と思いながら発表したのを覚えています。そして、ここでも決戦を勝ち抜くことができました。全国大会は浦安市(千葉県)で行われたので、完全アウェイでの戦いでした。緊張しっぱなしで、声が震えていたのを覚えています。いつも通りの発表ができず、結果は準決勝敗退となり、とても悔しい思いをしました。

ビブリオバトルはコンセプトとして「読んで面白いと思った本を紹介する」という大会です。出場した手前、著者の魅力を伝えることができなかったのだなとすごく悔しい思いをしています。この本は、読めば読むほど引き込まれていき、持ち時間である5分では話しきれないなと薄々感じていたもので、それをもってまですても、「変な家」を持って全国大会に出ることができたことを嬉しく思っています。今回の敗北という結果と、悔しい思いは、次の糧にしたいと思います。来年参加できるようであれば、今回より万全な準備をして挑みたいと思います。



シンポジウム



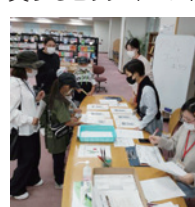
9月9日「第11回 大学図書館学生協働交流シンポジウム」(中国四国地区大学図書館協議会主催:オンライン開催)に参加し、図書館利用者拡大を目的としたこれまでの取り組みを発表しました。

特にコロナ禍でも活動可能であった企画「リレー小説」には、参加した全国46大学から質問が続出しました。他大学における同様の団体の活動報告が参考になり、比較して、本学のサポーター活動がより活動的だったことにも自信を得ました。

摂大祭企画「謎解き脱出ゲーム」

摂大祭期間の10月29日・30日、図書館の地上3階～地下1階フロアをフルに活用し、本や図書館にちなんだクイズを制限時間内に解き明かす「謎解き脱出ゲーム」を開催しました。

両日2日間で予想を上回る約250名を動員するビッグイベントとなりました。



学生はもちろん、近隣のご家族連れの方なども多く、みなさん脱出時間を競うようにゲームに取り組んでいただき、「とても楽しかった」「大学図書館を知れてよかった」「ぜひ来年も開催してほしい」などの感想をいただきました。手作りの「TOP賞」や「参加賞」のしおりも好評でした。



リレー小説



プロットだけを決め、メンバーが順番にリレー形式で小説を書き進めていく「リレー小説」を始めました。執筆はLINE上で行い、Twitter (@setsunan_tosyo) に順次投稿後、館内にも備え置きました。どこからでも執筆でき、利用者は来館しなくても閲覧できるというウィズコロナ時代に対応した企画となっています。現在3作目が進行中です。

マイ・フェイバリット・ブックス

図書館学生サポーターが主催する「マイ・フェイバリット・ブックス」とは、参加者がお気に入りの本を中心に語り合い、思いを共有する恒例イベントで、今年度は12月19日(月)に開催しました。10月に立ち上げた枚方キャンパス学生サポーターとの交流も兼ね、寝屋川キャンパス図書館ラーニング・コモンズと、枚方キャンパス8号館ラーニング・コモンズの両会場をオンラインで中継し開催しました。

当日は寝屋川サポーター5名、枚方サポーター2名に加えて、荻田学長、大塚教授の参加があり、サポーター3名がお気に入りの本を紹介。参加者からの質問に対し、その内容や思い入れを熱く語りました。最後に、荻田学長が学生指導にあたって参考にされているという一冊を紹介くださり、本からは様々な気づきを得られることなどお話しいただき、和やかな雰囲気の中、閉会しました。

紹介した本…「変な絵」雨穴(著) 双葉社
「魔王学院の不適格者」秋/かやはるか(著) スクウェアエニックス
「星の王子さま」サンテグジュペリ(著) 文春文庫
「才能の正体」坪田信貴(著) 幻冬舎



図書館学生サポーター活動 (枚方キャンパス)

設立及びキックオフミーティング

薬学部薬学科 5年次 宮本 夢彩
農学部食品栄養学科 2年次 川邊 瑠貴

今年の秋からメンバーの募集を開始し、11月25日のキックオフミーティングを機に本格的に活動を始めました。

キックオフミーティングでは、それぞれの本に関する内容を含めた自己紹介や、今後活動したい内容等を話し合いました。



オススメの本を紹介し合うことで、新たな本と仲間に出会うことができました。活動の幅広さや、さまざまな読書の楽しみ方を知ることができ、非常に充実した時間を過ごせました。

メンバー募集

薬学部薬学科 5年次 宮本 夢彩
農学部食品栄養学科 2年次 川邊 瑠貴

図書館学生サポーターでは読書が好きな方、好きな本や著者について語り合いたい方等を募集しています。あまり本を読んだことがない方も大歓迎です！本が好きな方は、新たな本や仲間と出会うことができます。あまり読んだことない方は、本を読むことで視野が広がり新たな人生を歩むことができるかも。発足したばかりなので、自分たちのやってみたい活動を行いやすい雰囲気です。

学生メンバーは薬学部7人、看護学部1人、農学部2人です。学年は1～5年生と幅広い層が集結し活動しています。興味のある方は右記QRコードからお申込み下さい！



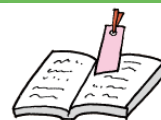
これからの活動

- 個人、グループでのオリジナル小説の制作 (学祭展示)
- テーマや季節に沿った本の展示会、POP作成
- 本を持ち寄った交流会
- 学生のおすすめの本をアンケートで聞き取り
- サポーターおすすめの本を発表
- SNS (Twitter, Instagram) で本の紹介、活動報告



■ “本の福袋”の作成 (本の福袋とは、中身のわからない福袋の中からPOPを頼りに本を借りる、というものです。福袋の中には、サポーター選出のテーマに沿った本が数冊入っています。)

他にもしおりやブックカバーの作成やビブリオバトル、小説に登場する料理の再現、国立国会図書館の見学などの意見も出ていました！



オリジナル小説を書いてみた

つながり

1. 農学部食品栄養学科 1年次 増淵 柚香 2. 薬学部薬学科 1年次 張 程皓

1
翔子、拓実、涼太の3人は音楽学部の同級生。
今はグループで作成するレポートで忙しい。
「先生はグループで好きなアーティストを調べてレポートにして発表なさいて言っていたけど、どうする？」
翔子が言った。
すると拓実が「真夜中Worker」はどうだ?と提案した。
「いいね!」
涼太と翔子も賛成した。
「じゃあ、今日はこまで。」
涼太が話を締めくくり、その日の話し合いは終わった。

帰り道、いつもは拓実だけが帰る方向が2人とは逆でバラバラになるのだが、今日は大学の近くにあるカフェにしようという話になって一緒に帰ることになった。
「えっ、拓実君ってミルクコーヒー好きだっけ?」
カフェの座席に座ってストローの袋を開けながら翔子が目を丸くした。
「ああ、最近飲めるようになってさ。」
拓実が言う。
「お前、大人みたいなこというよな」
「おい、お前なあ。大学生はもう大人じゃないか。けど何でも自己責任ってさ。気が減っちゃうよ。」
「でも大人って子供より自由だよな。」
翔子が笑って言う。
「だよな」
涼太も頷いた。

楽しい毎日だったが、ある日突然涼太が「調べるアーティストを『虹色のリス』に変えたい」と言い出して喧嘩になった。
「もうお前らとは別れる。」
涼太はそう言い残して去ってしまった。

2
その次の日、拓実と翔子はカフェで話していた。
「家に帰ってから自分が言い過ぎたかもしれないと思って、翔子と涼太にカフェで集まってもう一度話し合おうとメールしたんだけど、涼太から既読すらついていなくて。」と拓実は後悔した顔で言った。
「そうなんだ、...私も昨日は少し言い過ぎたかな? 涼太、まだ来ないね。」と翔子も後悔した顔で言った。
結局、その日は2時間待っても涼太は来なかった。

それから数日は3人ともバラバラに行動するようになった。
レポート提出の1週間前になって突然、涼太から拓実と翔子の2人にカフェに集まらないか? とメールが来た。
次の日、3人がカフェに集まったら、涼太は「ごめん、自分が突然調べるアーティストを変えたいと言って、意見が違うからってメールを無視したりして。自分勝手でごめん。」と謝ってきた。
話を聞いた所、涼太は家に帰った後自分の意見が受け入れられなくてイライラしていたが、数日経ってから落ち着き、自分勝手過ぎたと思い、どう2人に謝り、話そうか考えていたそうだった。
拓実と翔子2人とも「自分達も意見が違ったことで言い過ぎた。ごめんなさい。」と謝った。

その後3人は話し合い、「やっぱり、自分と意見が違ったとしても、それはそれで受け入れることも時として必要なだね。」と自分の意見をただ主張するのではなく、他の人の意見を聞くことも大事であるということを知った。
その後、『虹色のリス』も『真夜中Worker』も踏まえたレポートを発表し好評を納めた。

2022年度 図書館利用者アンケート結果

図書館では、皆様の利用状況やご意見・ご要望などお伺いし、図書館サービスの向上および図書館の利用環境改善の参考資料とするため、毎年同じ時期に利用者アンケートを実施しています。

2022年度は、10月31日(月)から11月19日(土)までの間、図書館内でのアンケート用紙配付とWeb回答の2つの方法で実施しました。

この度、アンケートの集計結果がまとまりましたので、前年度との比較なども交え、主な項目について結果をお知らせします。



1. 回答者数 ()内は前年度数字

92人(132人)、うちweb:65人(82人)

【本館】 70人(88人)、うちweb:57人(72人) 【分館】 22人(44人)、うちweb:8人(10人)

2. アンケート集計

(1) 図書館をどの程度利用していますか。

本館	選 択 肢	教職員	院・学部生	その他	計(人)	比率(%)	前年度(%)
	週に3日以上	1	11	0	12	17.1	44.8
	週に1～2日程度	0	24	0	24	34.3	18.4
	月に2～3日程度	—	—	—	—	—	11.5
	月に1～2日程度	2	18	0	20	28.6	5.7
	半年に1日程度	1	1	0	2	2.9	—
	試験期間のみ	0	2	0	2	2.9	2.3
	ほとんど利用しない	0	9	0	9	12.9	13.8
分館	選 択 肢	教職員	院・学部生	その他	計(人)	比率(%)	前年度(%)
	週に3日以上	0	2	0	2	9.1	11.4
	週に1～2日程度	1	4	0	5	22.7	15.9
	月に2～3日程度	—	—	—	—	—	27.3
	月に1～2日程度	2	8	0	10	45.6	15.9
	半年に1日程度	0	1	0	1	4.5	—
	試験期間のみ	0	1	0	1	4.5	6.8
	ほとんど利用しない	0	1	0	1	4.5	20.5
分館	選 択 肢	教職員	院・学部生	その他	計(人)	比率(%)	前年度(%)
	週に3日以上	0	2	0	2	9.1	2.3
	週に1～2日程度	1	4	0	5	22.7	15.9
	月に2～3日程度	—	—	—	—	—	27.3
	月に1～2日程度	2	8	0	10	45.6	15.9
	半年に1日程度	0	1	0	1	4.5	—
	試験期間のみ	0	1	0	1	4.5	6.8
	ほとんど利用しない	0	1	0	1	4.5	20.5

※上記数値のない欄(—)は前年度と今年度の選択肢内容に変更があったため、数値が表示不可となります。

(2) 図書館の利用目的を回答ください。(複数回答可) ※今年度新規項目

本館	項目	回答数	(%)
	レポート作成	18	10.8
	自学・自習	38	22.9
	グループ学習	3	1.8
	図書閲覧	26	15.7
	雑誌・新聞閲覧	6	3.6
	視聴覚資料鑑賞	1	0.6
	ゼミ・授業	30	18.1
分館	項目	回答数	(%)
	レポート作成	4	8.7
	自学・自習	16	34.8
	グループ学習	0	0.0
	図書閲覧	10	21.7
	雑誌・新聞閲覧	2	4.3
	視聴覚資料鑑賞	0	0.0
	ゼミ・授業	1	2.2

(3) 図書館の環境についてどう思われますか。

良い:3点、普通:2点、悪い:1点として平均点を算出しました。

項目	本館	前年度	分館	前年度
資料の配置	2.6	2.6	2.5	2.7
閲覧席	2.4	2.5	2.6	2.7
案内表示	2.6	2.5	2.5	2.5
静寂性	2.6	2.8	2.7	2.8
視聴覚設備	2.4	2.4	2.2	2.3
パソコン設備	2.3	2.3	2.1	2.4
ラーニング・コモンズ(本館のみ)	2.5	2.3	2.4	2.6
環境全般	2.6	2.5	2.5	2.6
開館日程・開館時間	2.5		2.5	
貸出冊数	2.6		2.4	
貸出期間(2週間)	2.4		2.2	

(4) 図書館内でよく利用した席(エリア)をお答えください。(複数回答可) ※今年度新規項目

本館	項目	回答数	(%)
	1階 閲覧席	24	18.2
	1階 ラーニングコモンズ	32	24.2
	1階 視聴覚コーナー	0	0.0
	1階 情報検索コーナー	6	4.5
	2階 閲覧席	28	21.2
	3階 閲覧席	11	8.3
	3階 グループ閲覧室	12	9.1
分館	項目	回答数	(%)
	2階 リーディングゾーン	18	37.5
	2階 エントランスゾーン	4	8.3
	2階 閲覧室(図書館隣接の部屋)	8	16.7
	2階 学術雑誌ゾーン	5	10.4
	2階 視聴覚ブース	0	0.0
	席は利用していない(書架や窓口のみの利用)	13	27.1
	3階 個人閲覧室	7	5.3
	3階 リーディングラウンジ	2	1.5
	3階 情報検索コーナー	4	3.0
	席は利用していない(書架や窓口のみの利用)	6	4.5

(5) 図書館資料のうち、次のどれを充実すべきだと思いますか。(3つまで回答)

【回答者数】本館：181人

項 目	回答数	比率(%)	前年度(%)
専門図書	38	21.0	43.4
教養図書	31	17.1	41.0
参考図書	21	11.6	25.3
文庫本・新書本	19	10.5	31.3
資格取得関連図書	16	8.8	26.5
シラバス掲載図書	11	6.1	10.8
一般雑誌	9	5.0	14.5
外国学術雑誌	7	3.9	12.0
国内学術雑誌	7	3.9	6.0
データベース	6	3.3	10.8
電子ブック	6	3.3	14.5
視聴覚資料	3	1.7	7.2
電子ジャーナル	3	1.7	4.8
新聞	2	1.1	4.8
その他	2	1.1	2.4

※上記表は回答数の多い順となっています

【回答者数】分館：49人

項 目	回答数	比率(%)	前年度(%)
専門図書	11	22.4	85.7
参考図書	10	20.4	28.6
教養図書	9	18.4	42.9
文庫本・新書本	8	16.3	26.2
資格取得関連図書	2	4.1	16.7
シラバス掲載図書	2	4.1	9.5
外国学術雑誌	2	4.1	4.8
その他	2	4.1	2.4
電子ジャーナル	1	2.0	9.5
データベース	1	2.0	7.1
国内学術雑誌	1	2.0	2.4
新聞	0	0.0	0.0
一般雑誌	0	0.0	21.4
視聴覚資料	0	0.0	4.8
電子ブック	0	0.0	4.8

(6) 図書館の入口付近の企画展示(特定のテーマの図書の展示)についてどう思いますか。

項 目	本館比率(%)	分館比率(%)
関心(興味)がある	60.0	45.5
あまり関心(興味)はない	25.7	36.4
企画展示は見たことがない	14.3	18.1

(7) 図書館イベント活動等についてご記入ください。

a: 関心(興味)がある、b: あまり関心(興味)はない、c: 知らない

項 目	本館 比率(%)			分館 比率(%)		
	a	b	c	a	b	c
摂大文化大賞	28.6	48.5	22.9	38.9	33.3	27.8
ビブリオバトル	15.7	61.4	22.9	22.2	50.0	27.8
マイ・フェイバリット・ボックス	15.7	38.6	45.7	22.2	33.3	44.5
選書フェア	52.9	25.7	21.4	36.8	26.4	36.8
図書館学生サポーター活動	20.0	47.1	32.9	11.1	38.9	50.0
読書ラリーYOMOCA	21.4	38.6	40.0	27.8	27.8	44.4
本おみくじ	31.4	34.3	34.3	5.6	33.3	61.1
リレー小説	11.4	30.0	58.6	15.7	21.1	63.2

(8) 図書館のお知らせやサービス内容を主に何で知りますか。〈複数回答〉

【回答者数】本館：119人、分館：24人

項 目	本館回答数	比率(%)	前年度(%)	分館回答数	比率(%)	前年度(%)
ホームページ	44	37.0	47.7	10	41.7	43.2
Library Guide[冊子]	3	2.5	3.4	0	0.0	0.0
館内のパンフレット	10	8.4	6.8	4	8.3	9.1
館内のポスター	37	31.1	52.3	10	16.7	22.7
館外のポスター	7	5.9	17.0	4	4.2	9.1
デジタルサイネージ	4	3.4	—	0	0.0	—
図書館スタッフ	8	6.7	6.8	7	20.8	15.9
友人	6	5.0	10.2	6	4.2	13.6
その他	0	0.0	6.8	5	4.2	11.4

※上記数値のない欄(—)は本館今年度の新規項目のため、前年度数値が表示不可となります。分館はアンケート実施時、デジタルサイネージ未設置のため、数値表示不可となります。

(9) スマートフォン、パソコン、タブレット端末などで、電子書籍を読んだことがありますか。

	ある	(%)	ない	(%)
寝屋川校地	54	77.1	16	22.9
枚方校地	15	71.4	6	28.6

(10) どんな電子書籍を読んだことがありますか。
または、読んでみたいと思いますか。(回答はいくつでも)

【回答者数】本館：141人

項目	回答数	(%)
小説	34	24.1
漫画(コミック)	52	36.9
ノンフィクション	2	1.4
ビジネス書	8	5.7
実用書	9	6.4
学術図書	10	7.1
参考図書(辞書など)	10	7.1
雑誌	16	11.3
その他	0	0.0

【回答者数】分館：48人

回答数	(%)
11	22.9
15	31.3
1	2.1
3	6.3
4	8.3
4	8.3
5	10.4
5	10.4
0	0.0

(11) どのような目的でラーニングコモンズを利用しますか？

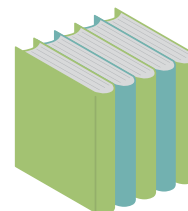
項目	回答数	(%)
授業	32	44.4
授業の課題のグループワーク	14	19.4
友人との談話	1	1.4
利用しない	22	30.6
その他	3	4.2

図書館利用統計

図書館ではより良い図書館運営のために利用状況の調査、アンケートの実施などを行っています。
ここでは、2022年度(12月末まで)の利用状況と、学部別貸出冊数等について報告します。

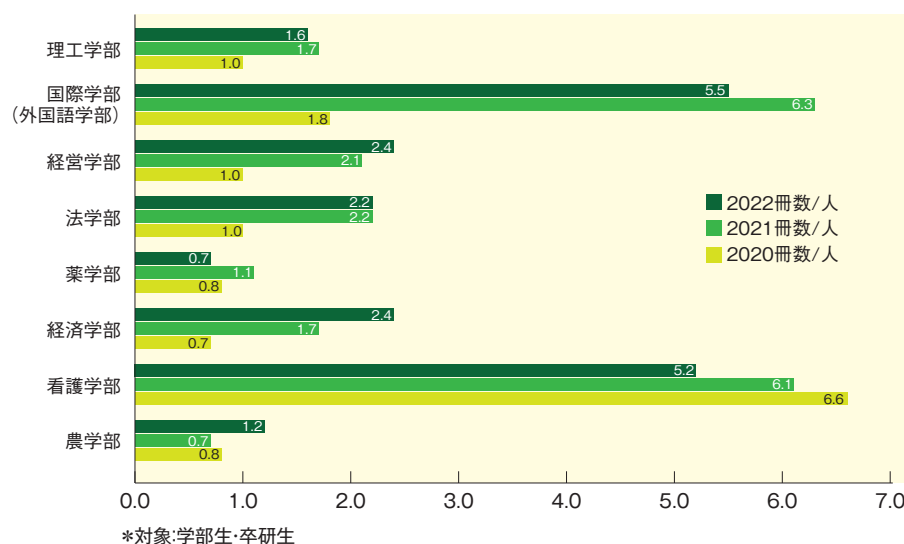
図書館利用状況 (2022年度[12月末まで] ※2020・2021年度は年間)

区分		本館	分館	計
開館日数	2022年度	216日	219日	—
	2021年度	278日	291日	—
	2020年度	248日	269日	—
入館者数	2022年度	108,948人	13,525人	122,473人
	2021年度	70,380人	10,427人	80,807人
	2020年度	20,903人	7,418人	28,321人
貸出者数	2022年度	11,614人	2,589人	14,203人
	2021年度	10,356人	2,722人	13,078人
	2020年度	4,933人	2,467人	7,400人
貸出冊数	2022年度	20,263冊	5,552冊	25,815冊
	2021年度	21,326冊	6,578冊	27,904冊
	2020年度	11,137冊	6,207冊	17,344冊



2022年度も引き続き新型コロナウイルス感染症の影響を受けましたが、対面授業が再開されたことで、12月末時点の入館者数は、対前年度比で152%という状況です。

学部別1人当たり貸出冊数 (2022年度[12月末まで] ※2020・2021年度は年間)



図書館では電子資料の学外からの利用も促進しています。SSL-VPNサービスを利用して学外からでも利用可能なデータベース・電子ブック等がありますので、ぜひアクセスしてみてください。

貸出トップ10 (2022年度[12月末まで]) [本館]

タイトル / 著者 / 出版社
同志少女よ、敵を撃て / 逢坂冬馬 / 早川書房
六人の嘘つきな大学生 / 浅倉秋成 / KADOKAWA
人は聞き方が9割：1分で心をひらき、100%好かれる聞き方のコツ / 永松茂久 / すばる舎
赤と青とエスキース = Red and blue and esquisse / 青山美智子 / PHP研究所
スマホ脳 / アンデシュ・ハネン著；久山葉子訳 / 新潮社
流浪の月 / 風良ゆう / 東京創元社
人は話し方が9割：1分で人を動かし、100%好かれる話し方のコツ / 永松茂久 / すばる舎
察しない男説明しない女：男に通じる話し方女に伝わる話し方 / 五百田達成 / ディスカヴァー・トゥエンティワン
クトゥルーの呼び声 / H・P・ラヴクラフト著；森瀬繚訳；中央東口illustration / 星海社
死刑にいたる病 / 櫛木理宇 / 早川書房
アーモンド / ソン・ウォンビョン著；矢島暁子訳 / 祥伝社
今すぐ使えるかんたんYouTube動画編集入門：PowerDirector対応版 / 入江祐也 / 技術評論社
嫌われる勇気 / 岸見一郎、古賀史健 / ダイアモンド社

*資格・就職・TOEIC関連本、リーディングラウンジの本は除く



2022年本屋大賞の大賞受賞作品が1位にランクインしました。他にも、本屋大賞ノミネート作品は例年貸出上位にランクインしています。また、「人は聞き方が9割」、「スマホ脳」など、メディアで話題になった本が多く借りられました。

1 身分別入館者数 (延べ人数)

入館者に占める学生比率:本館95%、分館87%

1日の平均入館者数:本館399人、分館35人

※寝屋川と枚方キャンパスの学生数比(7:3)から見て分館の学生入館回数が少ない

本館			分館		
身分	入館回数(延べ)	比率	身分	入館回数(延べ)	比率
学生	57,527	95%	学生	5,158	87%
教員	1,847	3%	教員	624	10%
職員	1,132	2%	職員	154	3%
合計	60,506	100%	合計	5,936	100%

2 身分別入館者数 (実人数)

入館した学生1人あたり平均入館回数:本館10.9回(月平均約2回)、分館4.5回(同約1回)

在籍学生のうち図書館に入館したことがある比率:本館81%、分館42%

本館				分館			
区分	入館回数(実)	延べ÷実	入館回数(実)÷在籍者数	区分	入館回数(実)	延べ÷実	入館回数(実)÷在籍者数
学生	5,262	10.9	0.81	学生	1,154	4.5	0.42
教員	221	8.4		教員	121	5.2	
職員	119	9.5		職員	35	4.4	
合計	5,602	10.8		合計	1,310	4.5	

3 学生学部別入館者数 (延べ人数)

最も入館者数が多い学部:本館)理工学部、分館)薬学部

最も入館者数が少ない学部:本館)国際学部、分館)農学部

本館			分館		
学部名	入館回数(延べ)	比率	学部名	入館回数(延べ)	比率
法学部	9,457	17%	薬学部	2,432	47%
国際学部	9,208	16%	看護学部	1,455	28%
経済学部	11,936	21%	農学部	1,266	25%
経営学部	9,231	16%	法経管理工	4	0%
理工学部	17,463	30%	合計	5,157	100%
薬看農学部	38	0%			
合計	57,333	100%			

4 学生学部別入館者数 (実人数)

最も入館比率が高い学部:本館)国際学部、分館)看護学部

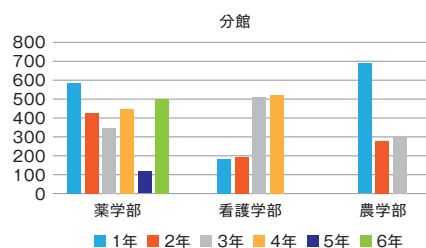
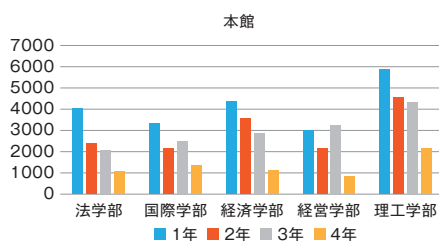
最も入館比率が低い学部:本館)理工学部、分館)薬学部

本館			分館		
学部名	入館回数(延べ)	在籍数比率	学部名	入館回数(延べ)	在籍数比率
法学部	860	79%	薬学部	484	35%
国際学部	813	90%	看護学部	289	69%
経済学部	947	86%	農学部	376	38%
経営学部	942	83%	合計	1,149	41%
理工学部	1,667	73%			
合計	5,229	80%			

5 学生学部・学年別入館者数 (延べ人数)

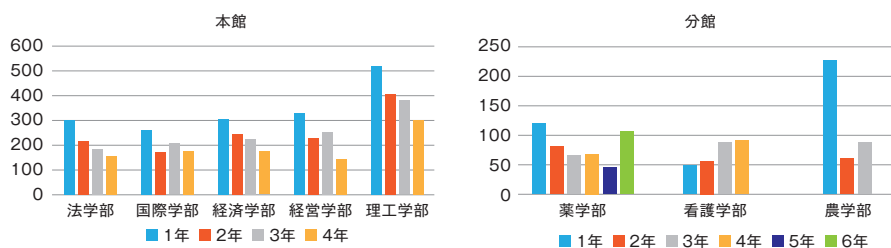
いずれの学部も概ね1年次が多く、4年次が少ない傾向

薬・看護学部は上記とは異なる傾向



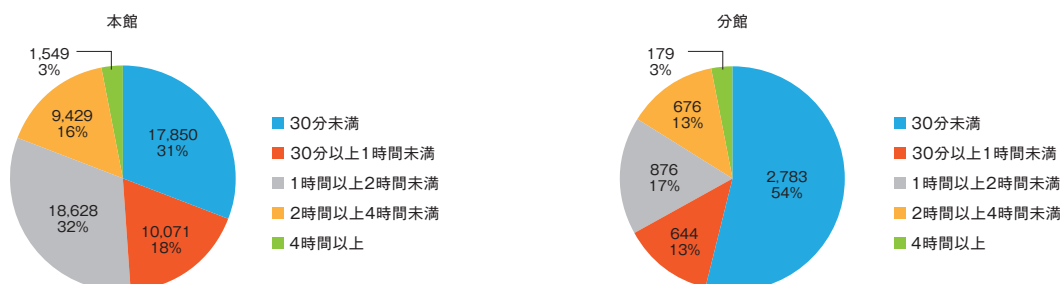
6 学生学部・学年別利用者数 (実人数)

いずれの学部も概ね1年次が多く、4年次が少ない傾向
薬・看護学部は上記とは異なる傾向



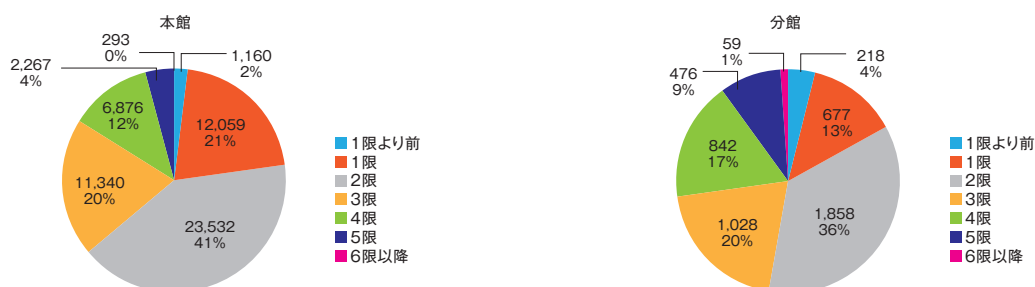
7 学生利用滞在時間数 (延べ人数)

本館:「1時間以上2時間未満」「30分未満」の滞在の順に多い
分館:「30分未満」「1時間以上2時間未満」の滞在の順に多い



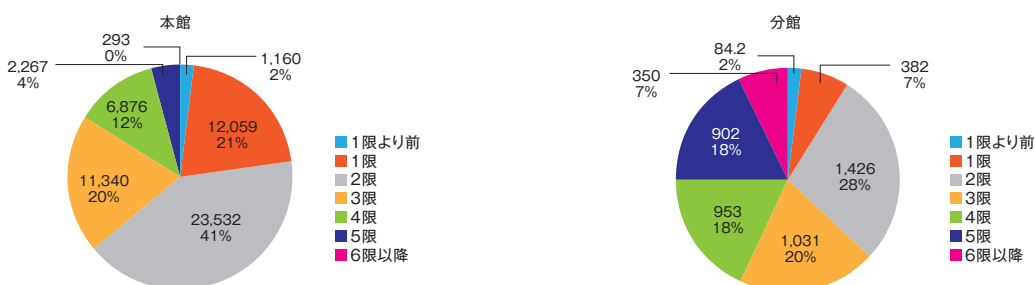
8 入館時間帯比率

本館:1～3限の入館者が多い
分館:2～4限の入館者が多い



9 退館時間帯比率

本館:1～3限の退館者が多い。19時以降の退館者数2% (1,354人)
分館:2～5限の退館者が多い。18時30分以降の退館者数5% (319人)



10 学生入館者図書帯出比率 (延べ人数)

本館:入館回数に対して学部別で15～37%、平均20%の帯出比率。
分館:入館回数に対して学部別で24～92%、平均49%の帯出比率。

区分	入館回数(延べ)	貸出冊数(延べ)	貸出比率(冊数/回数)
理工学部	17,463	2,904	17%
国際学部	9,208	3,440	37%
経営学部	9,231	1,910	21%
法学部	9,457	1,459	15%
経済学部	11,936	1,879	16%
合計	57,295	11,592	20%

区分	入館回数(延べ)	貸出冊数(延べ)	貸出比率(冊数/回数)
薬学部	2,432	593	24%
看護学部	1,455	1,332	92%
農学部	1,266	601	47%
合計	5,153	2,526	49%

サービスの紹介

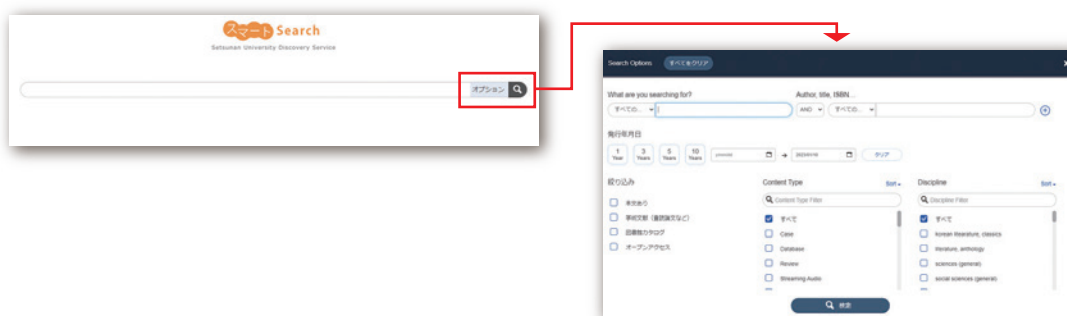
電子資料の紹介

図書館では、オンラインで利用できる各種の電子資料を提供しています。ここでは資料検索機能の便利な使い方や、学外からもアクセス可能な電子資料の利用について簡単にご紹介します。

「検索達人」を目指して、より良い学修・研究の成果につなげられるよう、図書館でも応援します。

Summon「スマート Search」

「スマートSearch」は、サーチボックスにキーワードを入力するだけで、図書館の所蔵資料、電子ジャーナル、機関リポジトリ、オープンアクセス誌を簡単に探し出すことを可能にした新しいサービスです。「どのデータベースを使えばいいかわからない」「とりあえず論文を探したい」、こんな時にお薦めです。



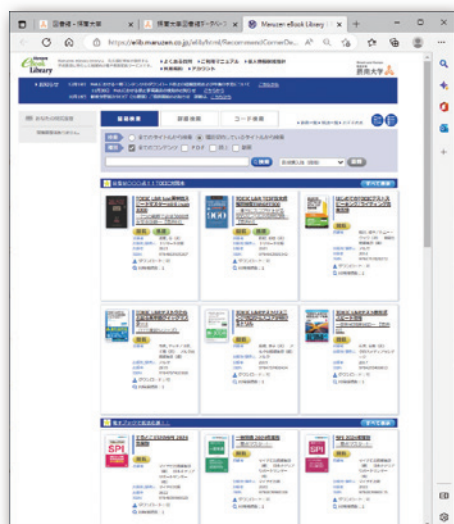
日経 BP 記事検索サービス

「日経BP記事検索サービス」は、日経BP発行の専門誌約50誌をデジタルデータ化し、オンラインで検索・閲覧できる雑誌記事のデータベースです。就職活動の情報収集、レポート・論文の参考文献として役立ちます。



電子書籍の紹介

図書館では、オンラインで利用できる電子書籍を契約しており、VPN接続などを利用すれば、学内だけでなく、自宅や就職活動先から利用することもできます。



Maruzen eBook Library

学術情報に特化した電子書籍を提供するプラットフォームで、学術機関向けの和書の電子書籍(参考図書、教養書、専門書 など)が配信されています。

2022年度には就職関連のほか、TOEIC対策本や語学多読資料などが揃っています。



EBSCO eBooks

学術書・専門書を中心に、レファレンス書や一般書などを刊行する日本欧米の主要出版社が参加する多様な内容を持つ電子書籍です。



KinoDen

学術書に特化した電子書籍です。読みやすいビューアや全文検索といった特長を備えています。

他に、ProQuest Ebook Central、Gale eBooksといった洋書の電子書籍もあります。

2022年度「摂大文化大賞」入賞作品発表！

図書館では毎年、学生の文化的創作意欲を奨励するため「摂大文化大賞」を設け作品を募集し、優秀な作品を表彰しています。今年度は4部門、計32点の作品応募があり、受賞発表および表彰式を12月14日(水)に図書館本館1階ラーニング・コモンズで実施しました。

厳正な審査の結果、大賞には、永田 沙彩花さん(外国語学部外国語学科3年)の写真作品「雲海」が選ばれ、この他7作品が部門賞などを受賞し、小山図書館長から表彰状と賞品が授与されました。

部門・賞	作品名	作者(敬称略)
大賞	雲 海	外国語学部 永田 沙彩花
文芸部門・優秀賞	僕たちは卒業するために手を汚した。	外国語学部 Dの意志を継ぐ者(ペンネーム)
文芸部門・準優秀賞	5分の暇つぶし	外国語学部 太田 光祐
美術・工芸部門・優秀賞	B3ボードの世界	法学部 渡辺 修司
美術・工芸部門・準優秀賞	白い季節	外国語学部 はっぱ(ペンネーム)
写真部門・優秀賞	雨の日、機嫌がいい時、私視点の雨	外国語学部 百舌鳥(ペンネーム)
写真部門・準優秀賞	夜光雲	薬学部 につた(ペンネーム)
審査員特別賞	頂を照らす朝日	外国語学部 根来 大空



大賞
【雲 海】



文芸部門・優秀賞
【僕たちは卒業するために手を汚した。】



文芸部門・準優秀賞
【5分の暇つぶし】



美術・工芸部門・優秀賞
【B3ボードの世界】



美術・工芸部門・準優秀賞
【白い季節】



写真部門・優秀賞
【雨の日、機嫌がいい時、私視点の雨】



写真部門・準優秀賞
【夜光雲】



審査員特別賞
【頂を照らす朝日】



表彰式後の記念撮影

編集後記

図書館にはいろんな利用方法があります。授業で学んだ知識を専門図書でさらに深める。その専門図書を探すためにデータベースで検索する。検索の仕方がわからなければ受付カウンターでスタッフに教えてもらう。蔵書されていない場合、受付カウンターで分館や大阪工大などのグループ校にあれば取り寄せもできるし、無ければ購入リクエストもできる。席では自習もできるし、ラーニングコモンズでは友達と議論し相互に学びを深めることも。TOEICや資格対策本を借りてチャレンジするのもよし。時には、授業の合間に雑誌を閲覧してひと休みも。通学のお供に小説などを借りれば通学も楽しみに。図書館学生サポーターに入学して友とイベントを企画運営してみたり。就職活動中にはSPIや企業分析関連の本を借りて対策をしっかりと！ 就活関連の電子ブックもあるので、大学に立ち寄らずとも自宅や移動中でも読める。就職内定をGETした暁には、旅行ガイドブックを借りて卒業旅行に！ 図書館をフル活用して大学生活をより充実してもらうことが摂南大学図書館員一同のよろこびです。

Smart and Human
摂南大学



「学而」 摂南大学図書館報 No.104 2023.3

本館 〒572-8508 大阪府寝屋川市池田中町17-8 TEL.(072)839-9111

分館 〒573-0101 大阪府枚方市長尾峠町45-1 TEL.(072)866-3102

URL: <https://www.setsunan.ac.jp>